

緑のセンターだより

NO. 131 平成22年2月1日発行

発行元: (財)札幌市公園緑化協会 豊平公園緑のセンター

ハナキリン

Euphorbia milii var. *splendens* トウダイグサ科
ユーフォルビア属

大正初期に渡来したハナキリンは、その丈夫さ、育て易さ、花の可憐さなどから、日本の津々浦々に普及して行きました。最近では、一頃ほど見ることも少なくなりましたが、かつては温室の片隅に、あるいは農家の軒下などに残り残されたように咲いている一鉢のハナキリンを良く見かけたものです。

ハナキリンを含むユーフォルビア属(*Euphorbia*)は2000種を超える大きな属で、ほとんど全世界に分布しています。属名は、ローマ時代のアフリカのモーリタニア王の侍医「Euphorbus」の名に因んでつけられたと言われています。ユーフォルビア属は多肉植物群と非多肉植物群に分けられており、ハナキリンは多肉植物群に属し、非多肉植物群ではハツユキソウ(*E. marginata* Pursh)、ポインセチア(*E. pulcherrima* Willd)などが良く知られています。

多肉植物群として数えられる種類は、数百種類以上にのぼります。これらの多肉ユーフォルビア類は、サボテン類と同様、砂漠地の環境に適応する進化を遂げた植物であり、その形態が特殊化している点でも、また変化に富む点でも、サボテン科に優るとも劣ら

ないものとされ、多肉植物園芸における主要な植物の一つとなっています。一見したところ柱サボテン類と非常に似た姿のものが多いですが、明らかな違いは、植物体内に白色の乳液を含み、傷つけるとそれが出てくるので、サボテン類と容易に区別する事ができます。この乳液は、多くは有毒であり、柔らかい皮膚などに付着すると炎症を起こす事があります。

ハナキリン(*Euphorbia milii* var. *splendens* Ursch et Leandri)はマダガスカル島にのみ分布する高さ1~2mになる低木です。茎は多数分枝して広がり、茎には縦に溝がありますが、稜にはならず、いぼ状に隆起した突起となり、そこに1本の棘があります。葉は倒卵形で、比較的薄く、若い茎にのみつき、古い茎では落葉し、鋭い刺ばかりになります。この刺は、托葉の変化したものです。

花は5cmほどの花柄の先にV字にさらに短い花柄を出し、その先に2個の紅色の唇のような花をつけます。しかし、この唇の花弁のようなものは花ではなくポインセチア同様の苞葉(花や花の塊りを包んでいる葉)とよばれるものです。花は真ん中にある複数の黄色の小さいものです。

Euphorbia milii Desmoul(ハナキリンの基本種)には多くの形態的変異があり、16変種が記載されています。いわゆるハナキリン(var. *splendens*)の他に栽培されている変種に、ブレオフトハナキリン(var. *breonii*)、フトハナキリン(var. *hislopii*)、黄花のvar. *tananarivae* Leanなどがありますが、園芸上はいずれもハナキリンと呼ばれているようです。和名の花麒麟は、サボテンのボクキリン、ユーフォルビア属のキリンカクに似た姿をしていて美しい花を咲かせるから、花柄が麒麟のように長く伸びているからなどの諸説がある様です。(T.K.)



2 月の 園芸作業

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。
ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、
ご不明な点は緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00～12:00、13:00～16:00
☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日

◆季節の観葉植物の育て方

観葉植物は熱帯性のものが多いので、冬季間の温度、日光、水分などに十分注意する必要があります。一般に生育適温は 20～23℃の範囲であり、北国では冬季間の低温に十分注意しましょう。

室内では窓際ないし明るい場所に鉢を置き、最低 15℃以上に温度を保つようにします。しかし一方で、北海道の住宅は本州に比べて暖房が完備されているため、日中はむしろ高温になりがちです。そのため乾燥しやすい居間などに置くことの多い観葉植物は湿度にも注意することが大切です。

① 水やりと湿度

水やりは 7 日～10 日間隔に 1 回を目処に、鉢の表面が乾いたらたっぷり与えます。ただし夏場同様、受け皿に水を溜めてはいけません。ほこりの除去や病虫害予防のため、時々風呂場や流しなどでぬるま湯のシャワーを葉の表面、裏面に掛けてやるとよいでしょう。湿度を好むアジアンタムなどは霧吹きをしたり、夜間ビニールで覆うなどして湿度を保つようにしましょう。湿度も最低 50～60%は保つのが理想的ですが、もし湿度が足りなければむしろ低温気味に育てる方が無難です。

② 施肥

居間などで育てている場合は、置肥を 1～2 カ月に 1 回くらい与えておきます。生長を促したい株には薄い液肥を 10 日～15 日に水やり代わりに 1 回程度与えます。

③ 病虫害予防

乾燥時と通気不良時に発生しやすい斑点病、灰色かび病、カイガラムシ、ハダニに注意しましょう。(詳細は、緑のセンターだより 130 号「冬の害虫防除」参照)

④ その他

暖房の温風や熱気が直接当たるような所には置かないようにしましょう。
根詰まりが見られる鉢は根を崩さない鉢替え(鉢ゆるめ)をしてもかまいません。

◎観葉植物と日光との関係

日光を好むもの ソテツ、ヘデラ(アイビー)、ゴムノキ、ポトス、サンスベリア、クローン、ベンジャミナなど。

半日陰を好むもの アンスリュウム、マランタ、トラデスカンティア、ドラセナ、モンステラ、オリズルラン、アスパラガス、ヤシ、アナナス、タニワタリ、ペゴニアなど。

日陰を好むもの アジアンタム、ペペロミア、フィットニア、ディーフェンバキアなど。

◆クリスマスカクタスとイースターカクタス

カクタス(サボテン)の仲間には砂漠性と森林性のものがありますが、いずれも南アメリカやメキシコ、ブラジルなど、熱帯や亜熱帯の砂漠やジャングルに生育するものが多いようです。クリスマスカクタスやイースターカクタスは森林性サボテンにあたり、多くは標高 1000～1300m の高所に自生します。豪華な花で人気のクジャクサボテンや月下美人などもこの仲間です。

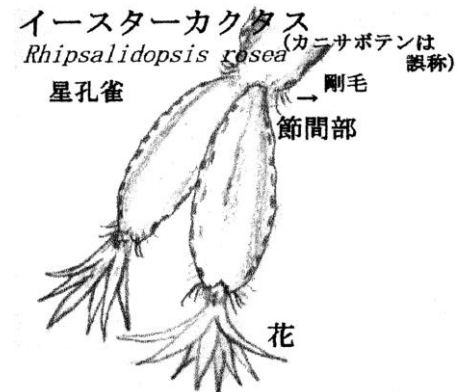
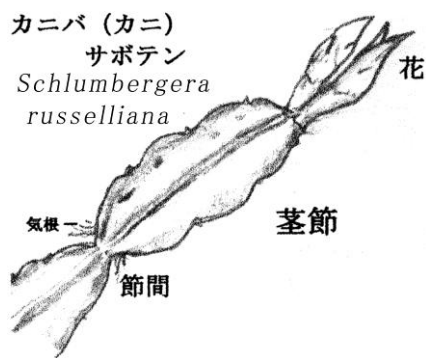
森林性サボテンには一般の草花同様、

- ・適度な水分をタイミングよく供給される
- ・昼間は高温になっても夜間必ず一定の温度まで下降する
- ・夏は暑くとも冬には適度な寒さに晒される

など、四季のある地域と似通った環境が必要です。

シャコバサボテンやカニサボテンは、夏の間に十分な肥培管理で養分を蓄え、秋の寒さと短日の影響を受けてクリスマス頃に花が咲くので、クリスマスカクタスという呼び名がついたのでしょう。

草姿が似ていることから「カニサボテン」と間違った呼び名で流通するのがイースターカクタスです。シャコバサボテンと違うのは開花時期です。この種類は3月から4月にかけて開花します。前種と同じ管理をしてもクリスマスまでに開花することはありません。キリスト教でいう復活祭(イースター)の頃に開花することから「イースターカクタス」と呼ばれます。イースターは基本的に春分の日後、最初の満月の次の日曜日ですから、例えば2010年の復活祭は4月4日、地域の気候環境によっては開花が前後するかもしれませんが、短日による開花調整は効きませんので強制的に前後させることはできません。サボテンの気分任せというところでしょうか。こうした性質はクジャクサボテンのそれに似ています。全体に管理の上ではクリスマスカクタスとあまり変わりませんが、晩秋に室内へ取り込んでからは暖房による高温にあわせたり肥料を与えたりは絶対にしないこと、2月になったら日の当たる窓辺に出して乾いたら水やりをします。蕾が見えても涼しいところから移動しないほうが良いでしょう。花後の管理はクジャクサボテンなどに準じます。



◆ Q & A ◆

Q

◆北海道でもカキを作ることができるのでしょうか。できるとしたらどのような品種がありますか。(南区 Yさん)

◆カキの木の北限はどこまでですか? また、北海道で栽培するにはどんな品種がいいのでしょうか?(北区 Sさん)

A

文献などではカキは東北北部以南で栽培され、北限は青森とされており、北海道で栽培や研究の公的記録もないようです。しかし、カキの生育限界温度は、品種にもよりますが、 $-20\sim-15^{\circ}\text{C}$ と言われており、北海道でも札幌以南、伊達や函館地方では所々で庭木として作られているのを見かけます。更に北の富良野や増毛でも見かけたことがあります。これらは苗を求めたもの、食用のものから種子をとってまいたものなどで、観賞用の庭木として作られていますが、一部は干し柿として食べられています。多くの場合、作り始めてから諺の通り8年くらいで花が咲き始め実をつけているようです。気温も低く、生育期間も短いため果実は全般的に小さく成熟に達しないためほとんどのものが生食はできないようです。

カキには熟すとそのまま食べられる甘柿と、渋抜きをしてから食べる渋柿があり、甘柿には富有、伊豆、次郎、禅寺丸、西村早生など、渋柿には平核無、四溝、西条などの代表的品種があり、これから変異したものを選抜したり交配して作られた200~250の品種があると言われています。北海道で作られている品種は明確ではありませんが、平核無が多く、富有、南部柿なども作られています。

栽培は、日当たり良く水はけの良いところであれば容易に育てることができますが、窒素は控えめに、リン酸を多めに施肥管理すると良いようです。

カキには上記のほかに豆柿、姫柿、老爺柿などと呼ばれる小型の種類があり、盆栽として作る人が多く、各地の秋の盆栽展でよく見られます。

2月～3月の催しのお知らせ

豊平公園緑のセンター 豊平区豊平5条13丁目 TEL 011-811-6568

内容	日	時間	申込受付開始日	費用・備考
園芸教室				
花の種まき実践教室	2月20日（土）	13:30～	2月11日～	材料実費
果樹類の剪定と病害虫予防	3月14日（日）	10:00～ 13:30～	3月11日～	無料
展示会				
アザレア展	2/16（火）～28（日）		入場無料	
クリスマスローズ展	3/2（火）～7（日）		協力：八紘学園、花工房夢織	
自然観察スライド上映会				
山野草スライド上映会 （津軽平野の植物など）	2月14日（日） 3月7日（日）	13:30～ 〃	1月11日～ 2月11日～	無料
世界の植物スライド上映会	2月21日（日）	〃	2月11日～	〃
コチョウラン植え替えサービス day	3月11日（木）	お客様のご家庭のコチョウランを、緑の相談員が植え替え実演しながら、解説いたします。 2月11日から電話でご予約を承ります。 （参加費：材料費実費のみ）		

百合が原緑のセンター 北区百合が原公園210 TEL 011-772-3511 <http://www.sapporo-park.or.jp/yuri/>

園芸教室	日	時間	申込受付開始	参加費
アザレアの育て方	2月13日(土)	10:30	1月11日～	130円
ツバキの育て方	3月7日(日)	〃	2月11日～	130円
実践：植物の殖やし方(接ぎ木)	3月14日(日)	〃	〃	1,000円
コチョウラン・カトレアQ&A	3月20日(土)	13:00～	3月11日～	130円
展示会		日	料金	
アザレア展	2/9(火)～28(日)		入館料130円	
ツバキ展	2/23(火)～3/28(日)		〃	
春の洋ラン展	3/16(火)～22(月)		〃	

その他の公園

園芸教室	日	会場	お問合せ
春一番に植えられるパンジーを種から育てよう	3月7日(日)	厚別公園	厚別公園管理事務所 011-894-1144

北海道環教教育ミーティング 体験屋台

日時 2月13日(土) 10:30～15:00 会場 エルプラザ2F

入場料 (大人・高校生)300円、(小・中学生)100円、(就学前児童)無料

【自然のおくりもの ～森や川でみつけたおくりもので学ぼう！～】(札幌市公園緑化協会出展) など

豊平公園 緑のセンター 公式ウェブサイト <http://www.sapporo-park.or.jp/toyohira/>

※「緑のセンターだより」バックナンバー公開中 ※